

## カリキュラム・教科書・アセスメントコンポーネント

### ニュースレター（第3回）

#### プロジェクトオフィスのレイアウト完成

ヤンキン教育大学内の基礎教育研究開発センター（Basic Education Research Development Center: BERDC）に構える本プロジェクトオフィスのレイアウトが完成し、新しい雰囲気の中、ローカルスタッフ及び日本人専門家が協働して業務にあたっています。新しいレイアウトでは22名分の机が設置されており、日本人専門家の来緬が集中した際にも対応できるようになっています。



#### CDTメンバー増員、各教科の活動より活発に

本プロジェクトが開始された当初、47名のカリキュラム開発チーム（CDT）メンバーがいましたが、各種の事情により4名がチームを抜け、教科によっては業務遂行が困難な状況が見られていました。プロジェクトからは教育省に対してCDTメンバーの増員を要求してきましたが、ようやく実現しました。ミャンマー語、英語、社会、道徳・公民、体育、芸術でそれぞれ1名、理科については2名追加となりました。また教科書編集のためのコンピューター・オペレーターが3名、さらに教師教育を担当するカウンターパート5名が新たにアサインされました。

CDT及び教師教育チームのメンバー数<59名>（2014年8月31日現在）

教科名	人数	教科名	人数	教科名	人数
ミャンマー語	4	社会	8	芸術	8
英語	4	道徳・公民	5	農業	4
算数	5	体育	4	コンピューター・オペレーター	3
理科	4	ライフスキル	5	教師教育	5

ちなみに、プロジェクト専門家は28名、プロジェクト雇用のナショナルスタッフは15名ですので、CDT、教師教育チームとあわせると総勢102名という大所帯です。

#### カリキュラム・フレーム決定のための第2回目会議の開催、残念ながら進展なし！

去る7月22日（火）に第1回 Subject Wise Committee 会議が開催されたことは、前回のニュースレターで報告しましたが、この結果を受けて第2回目の会議が9月3日（水）及び4日（木）の2日間にわたってセントラルホテルで行われました。この会議では第1日目に初等及び中等教育の目的、目標、教科構造について、第2日目にはカリキュラム・フレームの支柱ともなるべき重要課題である「教授言語」「ICT活用」「ローカル・カリキュラム」「効果的な教授法」「アセスメント」についての議論が行われました。



当初この会議で初等・中等の教科構成、授業時間数をはじめとするカリキュラム・フレームの内容を固めていく予定でしたが、実際に会議が始まってみると、第1日目は初等・中等の教育目標の字句の修正に焦点が当たってしまい、肝心の教科構成や時間数にまで議論が及びませんでした。同じように第2日目は先に挙げた「教授言語」や「ICT活用」など大きな課題を取り上げてしまったために、議

論が数カ月前の状況に逆戻りしてしまいました。例えば、本会議の開催前は「ミャンマー語を教授言語とすること。ただし少数民族地域における初等低学年においては彼らの母語を使って教授することも可能」という方向でほぼ決まりという状況だったのですが、「少数民族地域における初等教育では彼らの母語を用いて教授する（ミャンマー語は使わない）」といった意見があるグループから出され、「教授言語」が再び紛糾しました。結局、2日間の会議ではカリキュラム・フレームについては何も決まらずに、混乱が深まっただけという印象でした。

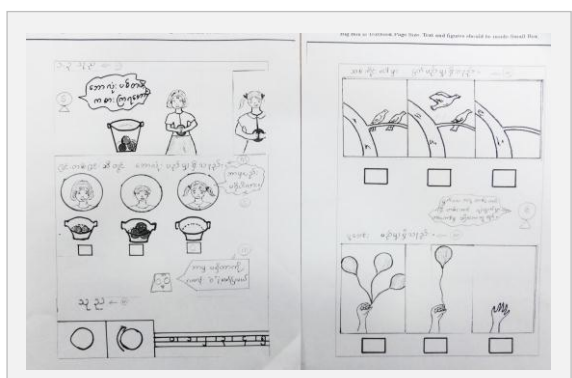
なお、ご参考までに、教育省から出された今後の予定は以下のようになっています。ただ、本会議では何も決定されなかったことから、「カリキュラム・フレーム（第3案）」の作成自体が難しく、今後の予定もかなり不透明となってきました。

- 9月： 上記会議を受けて「カリキュラム・フレーム（第3案）」の作成
- ?月： 第3回 Subject Wise Committee 開催し、第3案を検討
- ?月： 上記会議を受けて「カリキュラム・フレーム（第4案）」の作成
- ?月： 第4案を Curriculum, Syllabus and Textbook Committee 及び教育省教育計画訓練局局长に提出・承認

### 教科書デザイン、着実に進む

8月末時点で、「農業」「ライフスキル」を除くすべての教科においてプロジェクト専門家からの専門的な指導を受けることができました。その甲斐あって、CDT（カリキュラム開発チーム）の各教科グループでは、教科目標、学習内容、学習活動の概要はもちろん、小学校1年生用の教科書における2～3単元分の教科書デザインが着々と出来上がってきています。どの教科においても写真やイラストが効果的に活用されており、児童にとって大変魅力的な紙面構成になっています。また、各ページの説明文も教授・学習におけるプロセスやヒントといった内容になっており、分かりやすい言葉で簡潔に記載されています。

今後、出来上がった教科書デザイン案は各教科から選ばれた編集担当者が本邦研修（10月18日～10月31日実施）に持参し、それを使って編集技術を学ぶ計画です。どんな素晴らしいデザインになるのか楽しみです。



算数の小学1年生用教科書デザイン案



理科の小学1年生用教科書デザイン案



体育の小学1年生用教科書デザイン案



ミャンマー語の小学1年生用教科書デザイン案

なお、プロジェクトでは教科書デザインの際、以下の点について共通認識をしています。

1. 教科書のサイズは縦 24.13 cm、横 17.45 cm（現行教科書と同じ、教科共通、B5 版より少し小さめ）
2. 教科書は「児童の学習用」と「教師の指導用」の2つを兼ね備えたものである必要があり、前者においては簡潔な言葉使いでの記述、後者においては教師が教授プロセスを理解できるだけの記述が必要
3. 各単元レベルでの目標においては、評価がしやすいように「行動を表す動詞 (action verbs)」を使って記述（教科目標や学年別目標はその限りではない）
4. 写真や作品の掲載においては著作権・肖像権の関係上、プロジェクト内での作成が基本（児童生徒の写真は基本的にパイロット校において撮影したものを使用）。

以上